

録

ギロチン団事件と福田大将

記

狙撃事件の関連について

逸 見 吉 三

ほくくに与えられた課題は、「大正期のテロリストの行動とテロリズムの構造」と大変な注文である。ほくがギロチン団の一員とあつかわれているが、最初は中浜鉄君が仲間に入れと言ってくれたが、「女性や恋も知らずに死にたくない」とことわった。これは和田久太郎さんが「中浜らは天皇制に対して直接行動を考えているから氣をつけて相手になれ」とそっと忠告してくれた。

中浜らは大阪を中心に黨員を集め出して間のない頃、和田君助手の形で大杉栄の「労働運動」関西支局をやっていたところだから大正十年の終りころである。右の話から和田君はギロチン団結成には無関係であった。それが和田、村木君らが結ばれたのは大正十二年九月十六日、大杉が野枝さん六才の宗一さんと憲兵隊で殺されたことから、中浜らの斗争の方向が福田大将へのテロと目標が限定されたからである。

ギロチン団の名前は言うまでもなくフランス革命に使用された首切台の発明者ギロチンから取ったもの。初めは分黒党とも言っていた。分黒党はロシアで農村青年が中心に結成されたアナキスト行動団体で、県の知事や大地主にテロを敢行、バルチザン戦法

を取っていた。この分黒党の行動を中浜は氣に入っていたので分黒党とも名乗っていた。

革命ロシア政府と最初の国交回復を考えていた後藤新平に、

「ロシア問題でいいことを教えよう分黒党」と書いた紙片がいつのまにか彼の靴底に入れられていた。これは当時の三越デパートは上等のお客様には靴を預っていたので、仲間の一人を使って後藤の靴に投げ込んだのである。中浜鉄という男はこの様なことをよくやる男であった。彼の獄中から出した「黒パン」にギロチン団結成の経過がまともに書けないので詩や小説の形式で書いている。

大杉栄は中浜らの天皇制に対する斗争開始の考えも知っていたし相談も受けていたが、なにしろ大杉には一日二十四時間尾行調査が六人、見張られて大杉を訪ねる者は片っぱしから名前や住所それにかくしカメラで顔は写される始末である。中浜は中野の電信隊に入隊の知識を生かして電信修理人の身なりよろしく大杉の家に這入り込んで大杉に相談を持ちかけていた。中浜はこのことを伝えておきたかったのである。「逗子」の大杉の作品の中に示されている。大杉は社会主義運動は激しい弾圧を食うであろが、少くとも日本に於ける革命運動の速度は三十年は早まると言って、中浜らの行動を止めろとは言わなかったのである。なにがしの資金も援助していたこともたしかである。

ほくがただだと最初と和田、村木、大杉と書き出した訳は、

ギロチン団結成当初前後のことを書かなければ、ギロチン団が小阪の（現東大阪市小阪）十五銀行ギヤング事件から団員のほとんどが捕えられ、古田大次郎、倉地啓司、中浜鉄の三人が朝鮮に逃亡し、朝鮮独立運動関係者の手を通じて大小（大は爆弾、小はピストルの通信暗号）入手に身心胆を砕いていた。資金源のほとんどは村木君が大杉栄全集の利益金を割いていた。大正十二年九月大杉が殺されるや福田大将狙撃へ変更されるのは当然であろう。彼らが方向を変更した理由はかかる白色テロに泣きね入りすれば益々白色テロは横行するから、革命家を以って自から任ずる者としてこの白色テロとの対決に立ち上るのは革命家として当然である。当時の若いアナキストは同じ気持であつたろう。ギロチン団は中浜鉄、吉田大次郎、河合康左右、小西次郎、仲嘉一、内田源次郎、茂野榮吉、小川、上野克巳、田中勇之進、小田栄等が結成当初の団員で小田は入隊で団から去り、小阪銀行ギヤングは小西君あたりが発言した計画である。仲君らは内田、茂野らに勤先の集金を持逃げさせては如何かの提案に、そんな男らしくないことが出来るかと小西が反対、銀行ギヤングが決定した。銀行から本店に金を運ぶ行員はなぐられながら必死にカバンにしがみついている。見張りの吉田君が飛び出してきて殺してしまったが、目的のカバンは殺された銀行員が抱いたままでカバンの皮を單刀で破ろうとしているうち、逃げ出した先の別の一人の銀行員が近くの駅に助けを求めに走っていたので沢山の駅の車夫や人々が換声

をあげて押し寄せてきたので果せなかった。

小阪事件の失敗につづいて三重松阪市の甘粕憲兵大尉の実家に弟が高校に通っていることがわかつていた。田中勇之進君が客に向つたがあつさり保護尾行の刑事に捕えられた。後、田中君がぼくに語つたことは、後から刺せば刑事が付つていてもやれないことはなかったが、アナキストが丁年にも達しない学生を後から殺したと言われたくないので前に廻つて單刀を抜いたが手がふるえてすぐ突ぬけなかった。あまりに子供扱い少年であつた。

仲嘉一君は東洋紡績社長庄司乙吉を紡績協会の前で車から下りるところを、「庄司貴様に死刑を執行する」と叫び、しかし銃弾は庄司の死命を制するところから外れていた。「仲君こらえてくれ」と悲しい声に人間死を恐れる庄司の顔を見た仲君は第二発目を差し控え、庄司を乗せてきた車夫に「これから警察に行くがそれとも君が捕えるか」と言つたら捕えていた手を放つたのでそのまま神戸へ飛び鐘紡の武藤山治社長を訪ね、今庄司乙吉を撃ってきた、こんどは武藤の番だと秘書の原愛之進さんをフルエ上らせた。明石の旅館で寝込んでゐる所を八人の刑事にフミ込まれて捕えられた。原が警察に急報したからである。

小阪のギヤング事件はアナキスト・ギロチン団の仕業とは最初思つていなかった。本店へ毎週土曜集金を運ぶことを知っている内部の者の手引きで行われた犯罪と当局はこの線を盛に洗つていた。

河合康左右、小西次郎の両君が三越（大阪）へ行き、庄司事件
松阪の事件をほめかして金を取つてのん気に中ノ島公園に入る
ところを捕えられた。我々は雑誌記者で広告料を取りに三越へ行
つたのだと住所氏名を明らかにしてしまつた。京阪の今守口市に
なつてゐる彼らのアジトは刑事の囲むところとなり、小川、茂野、
内田、上野が河合、小西の様子を見て来てあっさり次々と捕えら
れ、神戸板宿の中浜、古田、倉地は東京に飛び吉田は江口換の家
に潜伏してゐた。これから和田、村木君らの福田大将狙撃行動に
合旅し、当初の天皇制への斗いは中断放棄されてしまつた訳であ
る。

最初僕に氣をつけてと忠告した和田、村木の両君がギロチン団
残党を多く入れて陣客を立て直したが、中浜はすでに東洋紡庄司
乙吉を訪ねて捕えられた。これは先に書いた朝鮮逃亡中に連絡の
ついた朝鮮独立運動のグループからの武器入手金の必要に迫られ
てゐた。村木源次郎君は大杉栄全集の利益金の一部を大杉の遺児
達に送金し、ほとんどを中浜、古浜、古田らの資金に充当してい
たが中浜のスリル好きの庄司乙吉訪問となつて捕えられに行つた
様なものである。

河合、小西、内田、仲、茂野、小川、上野らすでに捕われてお
り、ギロチン団の内容も当局に大体知られていて必死な中浜追捕
の手が全国に張られてゐた。東洋紡の庄司らは巧言を用いて二、
三百円の金を渡し、私は社長であるが一万円の大金はすぐには自

由にできない、日を改めてくれないから追ひ返しまんまとその網
の中へ捕われて行つてしまつた。今だから話せるがほんと倉地君
と二人で堂島川の対岸で彼らが捕えられ車に押し込まれて行くの
を見とどけて、倉地君は酉成の釜ヶ崎で広島から鳥取に出る鉄道
工事の人夫の募集に応じて地下に潜つてしまつた。

ギロチン団は何等仕事らしいことをしなймаま黨員のほとんど
は捕えられてしまつた。

村木、和田両君の動きからほくも補助的な手伝いを始める氣に
なつた。倉地君が長く潜伏する家を作つたのも僕であり、広島
トンネル工事で入手してきたダイナマイトを大阪の姉が病氣と口
実に月に一度の割にもう大分集つた。これらの物で京都園部の古
い同志の舟越基兄の鉄工所でセンバン工の新谷興一郎君が、ラジ
オを近く放送されるそのセットを作るのでセンバンを使わせてく
れと情熱をかたむけて、外装十個を作つてくれた。この外
装の百ミリ位長さ一米半のパイプを同志社大学生八木信三と阪谷
貫一（兵庫的形の人）新谷の三君が、京都五条駅から園部へ雪の
降る中を笑いながら担いで行つてくれた。東京の、窪の吉田君の
アジトは島貞尚という表面独身の新聞記者宅へ少しづつ新谷君が
運び屋をやつてくれ、古田君は図書館へ日参大英エンサイクロペ
ジア外国の専門書をあさつてやつとバク弾ができあがつた。山谷
や清水谷の共同便所や墓地で試案させて見たが、建物の固い共同
便所の効果満点であつたが、墓地の平地の飛散が十米あまりであ

ったので飛散の鉄片を小さく数多くすることで結論した。

大正十三年の七月初頭まで大体の準備は終了した。これより先に大正十二年九月十六日大杉が殺害されて何ヶ月目か、東京で記念集会が持たれる数時間前である。駒込の労働運動社へ九州の炭鉱労組を代表してきたと自称する二人の男が訪れ沢山の参会者と席を同じくしていたが、次々とひるめしに出て行っているときに「この大杉の骨俺がもらった」とピストルを突きつけながら表通りへ出た。追いつがる同志達に一二発発射したが幸い当らなかった。「カラ玉だ」と言つて富山県高岡市から上京していた荻原貞一君がピストルの銃口を握り相手の男と二人でころんだとたん銃口から火を吹き、原はそれでも手を放さずピストルを奪い取ってしまった。犯人は遠山満、内田良平ら右翼団体の下部組織の大化会岩田富美夫に命令されてやってきた男で、下鳥繁三という満州浪人でこの男後に仲間ケンカでピストルでやられて死んだ。「大杉の骨を奪ってきたのはこの俺だ」で右翼では大きな顔をしてめしが食えたものらしい。このピストルは村木君が捕われた日刑事にタタキ落され取り上げられてしまった。この記念集会は悲愴な熱気決意が充満し、さすがの当局も解散命令を下しかねて盛會に終了した。

大正十三年の初頭から僕等は、大杉の思想をうけつぎ革命的労働組合自由連合会結成の為広島、岡山、神戸、京都と飛び廻っていた。和田久太郎君は自分等の計画をカモフラージュする為よく岡山

山や広島の地方連合の四月結成大会に表れていた岡山自由連合の盛大な大会は終り組合の人々と座談会を開いていた。いきなり土地の親分が子分と会場になだれ込み和田君がちょうど車座の真中に一人座っていたので「お前か。東京から来た社会主義者と云うのは」と云いざま木刀で一撃食らわしやがった、お芝居はちゃんと仕組まれていて署長が飛び出して来て岡山弁丸出しで「ケンカ止めよれ両方がいりよれ」で表へ出されてしまったが、街頭での一戦の腹を決めて外へ出ると三十人ほどの右翼を百名近くの警官が保護して行つてしまった。和田君は福田大将狙撃に失敗し獄中からの手紙で、此の計画がなかったら僕はなぐられてじつとしていなかった、と岡山の同志へ彼の心境を書いて寄来していた。彼の遺著、「獄窓から」にも書かれている。

倉地君は大阪の刑事達に全然顔は知られていない中浜と共に警察の写真リストは古い前のもで、僕はよく当局に他の事で検定や留置されるたびに、見君、倉地君や中浜はどの辺に潜伏していると思うとよくさぐりを入れた。第一倉地や中浜の顔も見たことはない」と言うと、中浜の写真は三越の下足番労働者を煽動したときなぐられ頭にホータイした大正九年頃のと、倉地君のは彼が天満紡績労働組合代表として総同盟大会に参加した五六年前のもの総同盟のお偉方と一所のもので、「これが倉地君ですか」でトボケてすんだ。倉地君がドテラなど着込んでぼくの家のトナリのうどん屋に突然現れ、トナリの吉ちゃんに一ぱい持つて行っ

てくれて決してぼくの家に入ってこなかった。向いのアルミ工場の守衛室から僕の二人の尾行は呑気に僕の外出を待っているが、ぼくが何回も出入するうどんやへ指名手配の男がきていようとは、倉地は警察の逆手をよくつかんでいたがあまりの大胆が失敗を生んでしまったのであるが後にそれを書くことにする。

中浜らの公判は古田、倉地が捕われないので予審が終結に至らないまま、北区若松町の末決監に皆んな入れられたままである。

この間彼は死刑か長期の刑は確定的なものである殺人強盗の主犯と目されていたからである。獄中から獄憲通信を出したいからとの彼の願いで、大串孝之助（社会主義同盟の発会式で軍隊赤化事件で刑を受けた）君と二人で黒パン獄月号として七〇ページほどの個人雑誌第一号を出す方針でいた村木源次郎は、中浜に今日は昨今の七月初め（大正十二年）に大杉はヨーロッパアナキスト大会から元氣よく帰って新しいアナキストの結成準備を初めた日だ、もうじき九月一日が来る。大杉の記念集会でも花々しく開いて大杉の残党の力を見せて世間をアット言わせてやりたいものだ、福田大將狙撃を予告する長文の手紙が中浜かぼくに宅下してきた。（刑務所で必要なくなった書物や手紙や衣類の洗たくをぼくに下げてくることを宅下げ手続と言って下げてくる）

いよいよ決行の時期は九月一日か十六日と判断され、わずかであるが関連のあるぼくは落ちつきがなく困った。大正十三年九月一日東京大地震一周年記念法要が本郷 楽軒の前の寺で開かれる

ことが決った。和田君が大杉殺害の甘粕正彦大尉の上官戒嚴司令官福田雅太郎大將が法要に参席することが明らかに解っていたので、待っていて狙撃したがあまりに近くから発射したので太い背骨から弾は空中へ外れた。新聞には空弾であったと書かれていたが空弾なら前ヘドスンとたおれ、背骨を外れ大きなヤケドや出来ない筈である。

和田君が失敗したことを知った倉地、古田君は、福田大將宅に御見舞の品物と見せかけて今度は爆弾小包を送った。これは大將は不在で娘さんが何気なく小包を開くや箱の中から浦島太郎の玉手箱よろしく煙がすっと立ちこめてきたので軍人の娘、その茶室を飛び出すと同時に爆発した。作られた爆弾はダイナマイトを主体にあまりに外装の金属が固すぎたのか砲弾のように天戸に飛び当たったので爆発、大穴を明けただけで人命は事無きを得た。その明くる日和田君が捕われている下谷署長官舎と署の中間に一発投げこまれたが、下水道近くのミゾに落ちて下水の水を吸ったのか投げこみ方が悪かったのか不発に終った。銀座で電車レールに生のダイナマイトが置かれ車輛破損の爆発さわざと九月七日までの出来事で全国一斉にアナキストの大検足が始まり、和田君を屋夜わかたずに取調べを強行し、古田、倉地、村木の居所自白を強要したが、和田君は一週間もすれば古田、村木、倉地はもうアジトを他に移していないだろうと思ったのと、全国一斉のアナキスト狩りの被害を考えた和田君は、倉地、古田と三人の行為で他

のアナキストは関係ない全同志、の釈放を条件に、蛇窪のアジトを自白してしまった。

病弱の村木君の肺患は悪化し走行も出来ない位ひどくなっていた。「遊びに来た叔父が氣病で困っております」村木君の叔父を放っておかず倉地君は京都、大阪と逃亡をつづけているが訪れる所もなくなってしまった地方のアナキストは、全部警察に投げ込まれて留守宅に刑事が張り番でフロヤ、サンパツ、食堂に村木、倉地の写真がバラまかれている。とうとう大阪市北区本庄豊崎町の角形ガード前の古い友人の家で明け方「倉地カンネンして出てこい」の声で飛び起きて、二階の窓を明けるや刑事が一ぱい東海道線の高架の上に居り、倉地君がフトコロに手を入れるや刑事たちはクモの子ヨロシク飛び散って逃げ出した。

倉地君は両手を差し出してのこの二階から降りてきて捕えられた。この辺は倉地君が紡績労組のオルグとして飛び廻った土地でよく知っているのがいけないのだ。ここに来る前逃げるところが無くなったらここにじっとしていなさいと古い同志の家を紹介しておいたこの同志は今も建在で、東京印刷工組合の創立者の一人で大正九年末の東京の全新聞社のゼネスト参加報知や読売同社で活字ケース全部をたたきつぶして新聞発行を数日不能に終らせた争議団のリーダーで、東京では使用する印刷所なく大阪へやってきていた運動の表面にはそれから出てこなかったが筋金の入った男で心よく倉地君を置いてくれた。ここでの人氣に潜伏してお

ればいいのに、倉地君の紡績工時代の友人を片っぱしから調べ上げてスパイ網は完成していた。古田君は電報々々の声に起こされ、古田か村木がいることがわかるや表戸をけ破って刑事がなだれこんで村木君は起き上れぬまま、手元に置いていたピストルの引金も引きえずに終った。古田君は倉地君からの電報と早合点してしまった。まさか和田君が自白しているとは思わなかったのである。倉地君の逮捕は先に書いたが、捕えられたのは一番最後に古田、村木君から二十日後であった。

これでギロチン事件と福田大将事件の関係者は片づいたことになっていた。倉地、村木、古田和田君らに爆弾のケースを作った新谷君は、倉地君らが言わなかったたのでそのまますみそうで、いくらかの逃亡資金を作ったばかりは調べの外にあった。

大正十三年末大正天皇が病重しのことで皇后が京都桃山（明治天皇墓所）へ参拝の予告がさり、近畿全県の社会主義者（当時はアナキストも共産党も取締り当局では社会主義者と言っていた）一斉尾行と検足が始まったが、新谷与一郎君が居ないので訪ね廻っていた。七条の彼の友人は何気なく彼からこんなもの預てあるとのこの古田君への送り残しの爆弾ケースを持ち出してきた。三個である。皇后の来京中であり驚天した当局と新谷君も預けたものがわかったので逃げ廻ってとうとう旧友の鍋山貞親君を訪ね総同盟大阪連合会前で捕えられた。

新谷君は僕、阪谷、八木、川合、舟越関連を明らかにしたので

正月も真近く、京都刑務所へタタキ込まれた。京都では多くの過去や運動歴をあまり知らないの、倉地、和田、村木のことは一言も言わずにすませられて新谷君との資金援助のことだけだ。八木、阪谷とも運動上の交流も何もないことで検事殿は満足してくれた。

東京の和田、古田君は分けて京都で公判が開かれた。果して爆弾ケースだけで爆弾と判定できるかの論争で刑は軽く、それでも四年の判決であった。大阪の控訴審で警察調書の不備を取り上げ他の被告は逸見吉三又は逸見吉蔵二人の人物名を述べているが、逸見吉蔵という別の犯人が居ることになっている。刑事たちの警察調書のミスで大阪では半分になり上告し、山崎今朝弥、布施辰治の両氏の奮斗よろしく又半分おまけに未決通算を二ヶ月分差引いてくれたので、十ヶ月大正天皇死去による特赦令で二百日位、昭和二年春東京豊多摩刑務所を飛び出した。

黒色青年連盟もできあがっており、銀座街頭の窓ガラスを片ぱしからタタキ割り革命の演習を実践していた。全国労働組合自由連合会も東京・横浜・静岡・名古屋・京都・大阪・神戸・岡山・広島・九州にも小さいながら二つの組合ができ、共産党はロシアの資金援助を受けていたが、非合法団体として地下に追い込まれていた。昭和十年の無政府共産党事件まで人員としては五千人位であったが、アナルコ・サンジカルズ運動を弾圧はあったが筋金の入った組合や組合員がガス争議でタンク占領、エントツの上

で十五日もがんばり勝利したストライキ。自由法曹団の森長英三郎氏は法律雑誌にこのギロチン団事件を初め、金子文子、朴烈事件、秀島君ら二重橋潜入事件、福田大将事件等の公判記録を中心と調べられ、いろいろ書かれているが要するにこの様な考えは抱いていたが実行には至らなかった、ことに大逆事件（幸徳秋水らの）に至っては政府のフレイム・アップだと書かれ、当時幸徳秋水の書生であった阪本清馬老を表面に立てて「大逆事件の真相を明らかにする会」等々で再公判請求の運動も、政府や司法当局に軽くヒネられて法律斗争のむなしさ無力さをいやと言うほど味ったのはついこないだであった。

多くの言いたいことは大それた大逆の心を心に書き、たとえおもちやの様な爆弾でも作っただけでも、明治政府から見ればこれらの大逆人たちは萬死に当る奴らであろう。おもちやに等しい爆弾を作っただけで二十四人の死刑重刑はひどい。再審と無罪を宣告すべきであるとお考えの様であるが、無罪の再審があっても殺された人々は生き返らない。

中浜鉄君らも天皇制に対する斗争を考えたのも、幸徳以下刑死された人々の思想と行動の遺産を再現するにあった。

英国の皇太子を付け廻して箱根山中をさまよった彼。斗争資金を作るため大阪軍機局へ日本銀行から工具の給料を運ぶ二人乗りを横倒しにしたが、あまりに重い金庫に手を付けられず守衛が逆

にピストルを抜いて近くで演習行軍中の兵隊に助けを求めた事件

は、運機局が警察に協力を求めないままに終っているが、中浜、倉地君一味の仕業であった。

要するに日本に於ける革命運動の表面に表われた多くの事件は、少くとも大正十二年の日本共産党の結成までは、アナキストを自認する人々の行動であった。

これらの人々の行動がなにもなかったのだと書きまくっていることは、日本共産党のひやめし食共の共産党へのへつらいと正しい革命運動史の抹殺以外の何んであろうか。

中浜鉄は幸徳らのことを次の如く歌っている。
彼等の墓標の裏の裏を見つめろ！

伊藤野枝を語る

—日本アナキズム思想の流れ—

とき 11月2日(土)午後7時

ところ 大阪・太融寺会館

“日本文化史研究会”

チューター・泉氏

主催 赤と黒の会

ルソーに於ける政治思想の考察

「社会契約論」を中心に

その二

尾 関 弘

「その一」(大阪あなきずむ第三号)に於て既に

△はじめに▽

△社会契約論までのルソーの思想▽

△ルソーとアナキズム——その矛盾した一致と不一致▽

△ルソーの思想に於る「自由」の概念▽

等について論じた。

△ルソーの思想に於ける国家論▽

ルソーはプラトンのように、国家を一個の有機的な人間として考えた。それ故に、ルソーの考える国家には、完全な人間の完全な人格とでも言うべきものが、窺えるのである。「それは常に正しく、永続的であり、他人に譲ったり分割したりできず、また他人によって代表されることもない」ものであると言っている。たしかにルソーの主張するごとく、主権は代表され得るものではないし、それ故に代議政体を認めるわけにはいかないのだが、ルソーの言うところの主権は、いわゆる△一般意志▽であり、人民の△合致した意志▽である。人民の共通意志を普遍的なものとして